

ごみ排出量等の将来予測（現状予測）

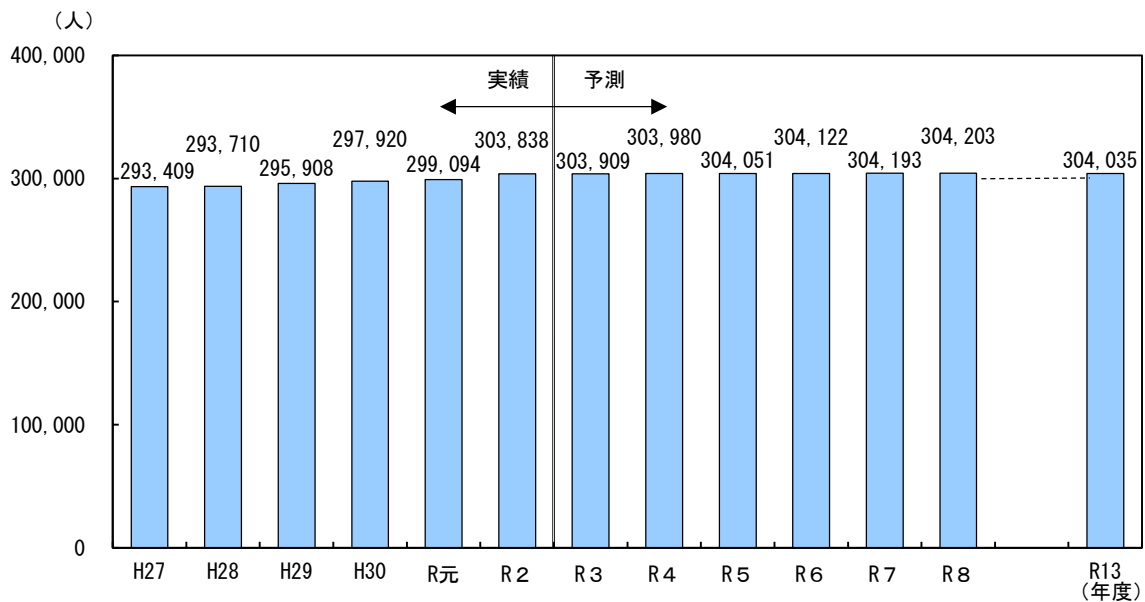
1. 将来人口（仮人口）

現在、本市の人口は、平成 27 年(2015 年)12 月に策定した「明石市人口ビジョン」(旧人口ビジョン) や、令和 2 年 3 月に策定した「SDGs 推進計画」に示されている人口推計値よりも増加傾向となっています。

そのため、今回、「一般廃棄物処理基本計画」における将来人口については、「SDGs 推進計画」で定められた人口推計値をベースに、令和 2 年度実績値での補正を行った値を用いることとします。

備考) 今回の計画策定にあたり、上位計画である「SDGs 推進計画」で定める人口に合わせ、国勢調査人口を採用します。

採用する国勢調査人口については、2020 年の国勢調査の結果を踏まえ、改めて将来人口推計を行った上で設定します。(2021 年 11 月頃)



備考) 各年 10 月 1 日人口

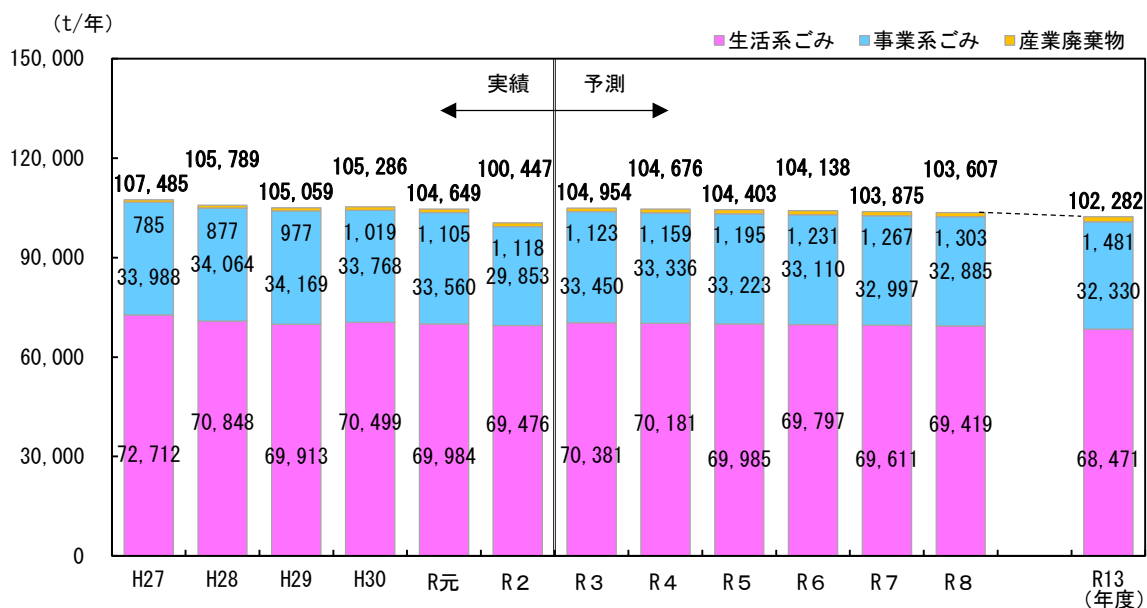
2. ごみ排出量の将来推計（現状推移）

（1）ごみ量

1) 総ごみ量

将来推計についてみると、令和3年度以降の総ごみ量は減少傾向が続き、令和13年度には約102,000t/年になると推測されます。

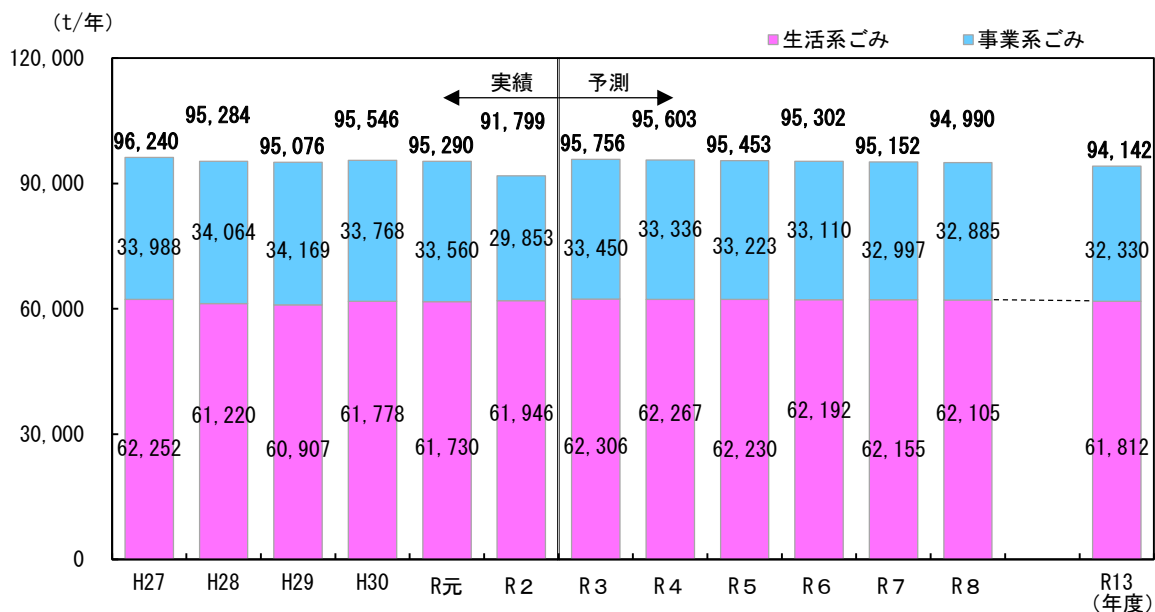
排出別に見ると、「生活系ごみ」及び「事業系ごみ」は減少傾向、「産業廃棄物」はやや増加すると推測されます。



2) 市ごみ処理量

令和3年度以降の市ごみ処理量は微減傾向となり、令和13年度には約94,000t/年になると推測されます。

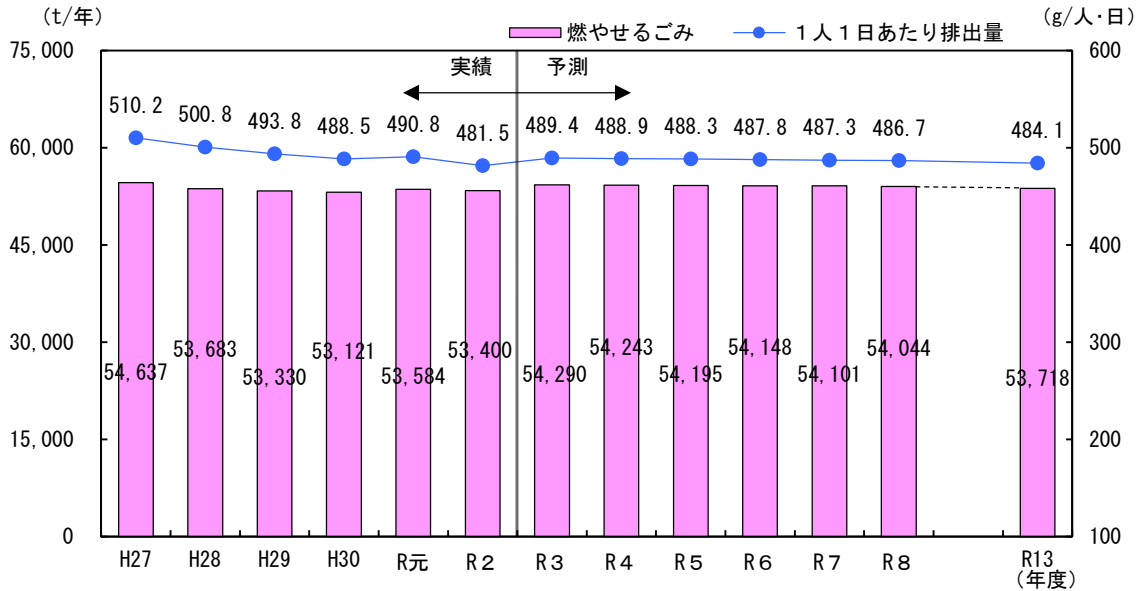
排出別に見ると、「生活系ごみ」は微増した後ゆるやかに減少し、「事業系ごみ」は令和2年度からは増加するものの、令和2年度以前に比べ微減傾向になると推測されます。



(2) 生活系ごみ

1) 生活系燃やせるごみ

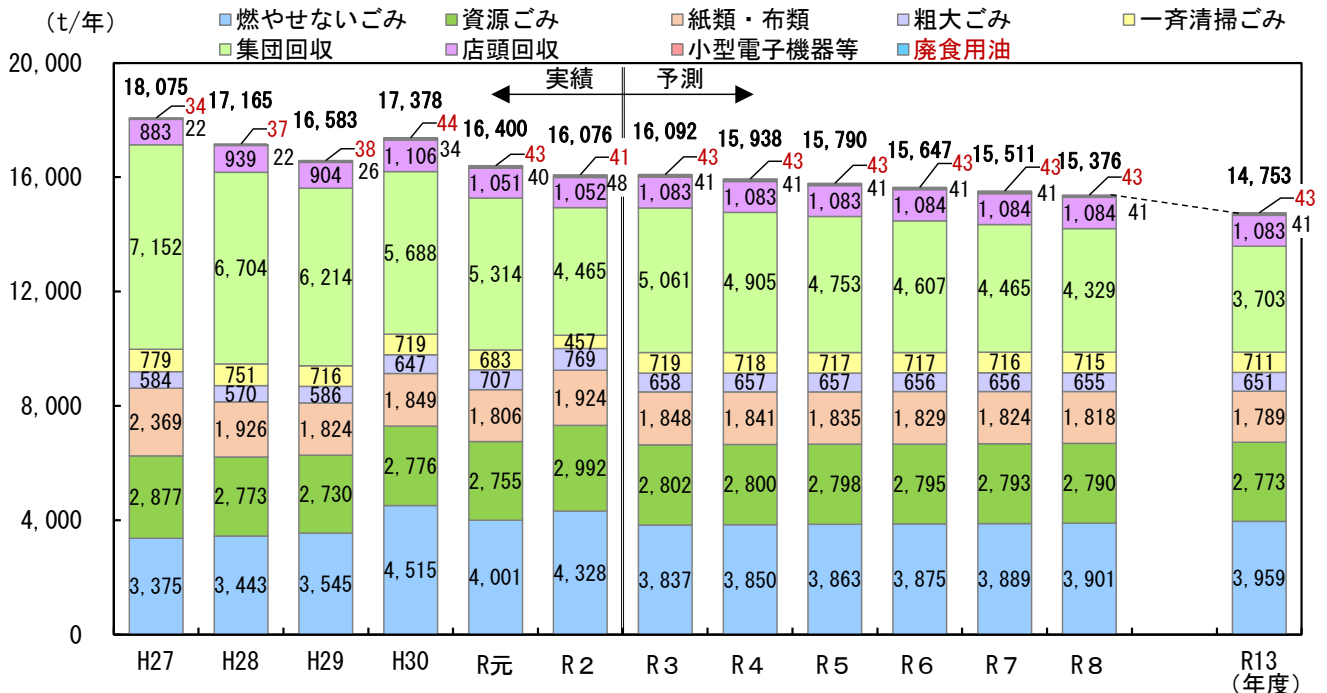
生活系燃やせるごみの将来推計については、減少傾向になると推測されます。



2) 生活系ごみ(燃やせるごみ以外)の内訳

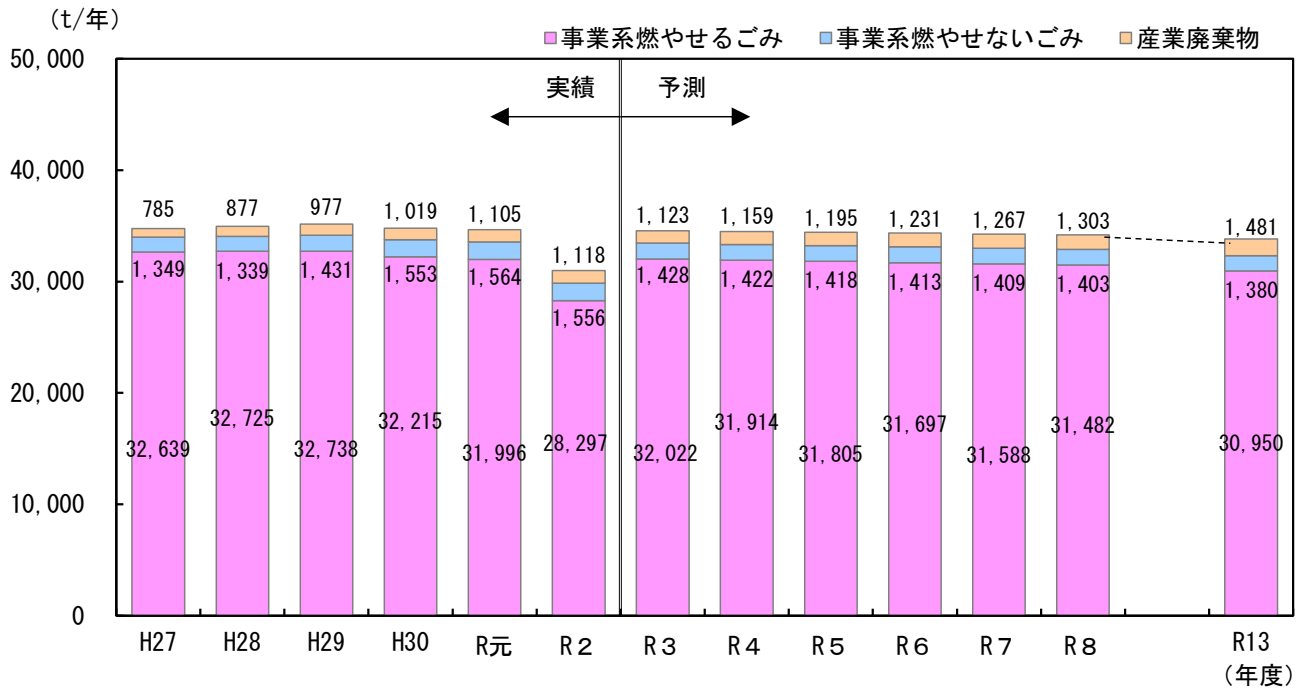
生活系ごみ(燃やせるごみ以外)の将来推計について、全体を見ると減少傾向となり、令和13年度では約15,000t/年を下回ると推測されます。

排出別に見ると、「資源ごみ」及び「紙類・布類」、「集団回収」は減少傾向となりますが、「燃やせないごみ」は微増が推測されます。また、「店頭回収」、「小型電子機器等」、「廃食用油」は大きく変動しないと推測されます。



(3) 事業系ごみ及び産業廃棄物

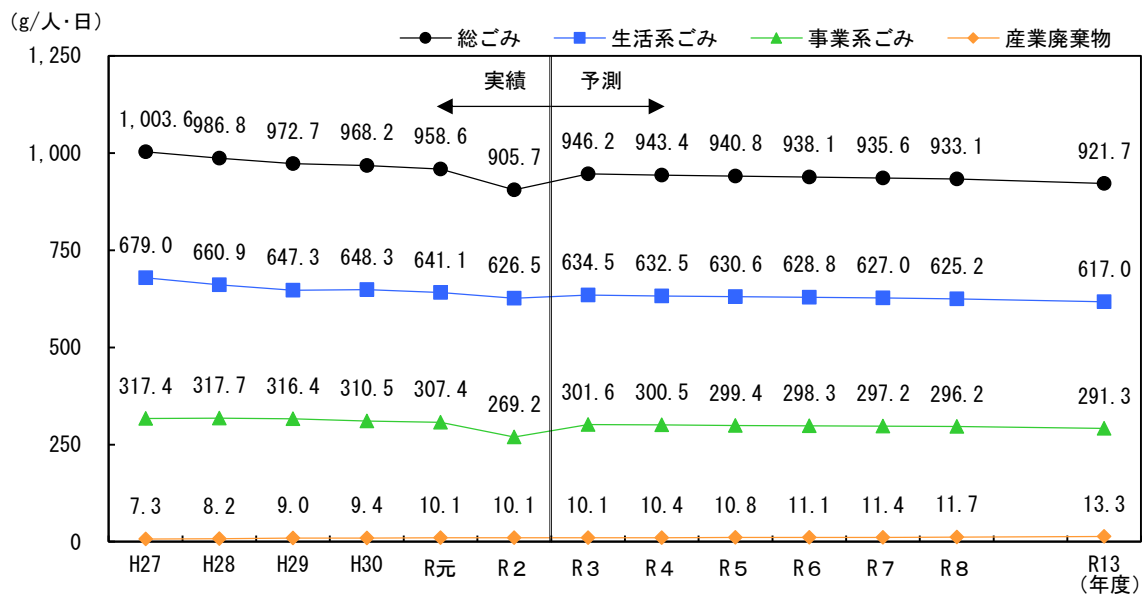
事業系ごみ及び産業廃棄物の将来推計については、事業系ごみの燃やせるごみ、燃やせないごみはともに減少し、「産業廃棄物」は微増が続くと推測されます。



3. 排出原単位（1人1日あたり排出量）

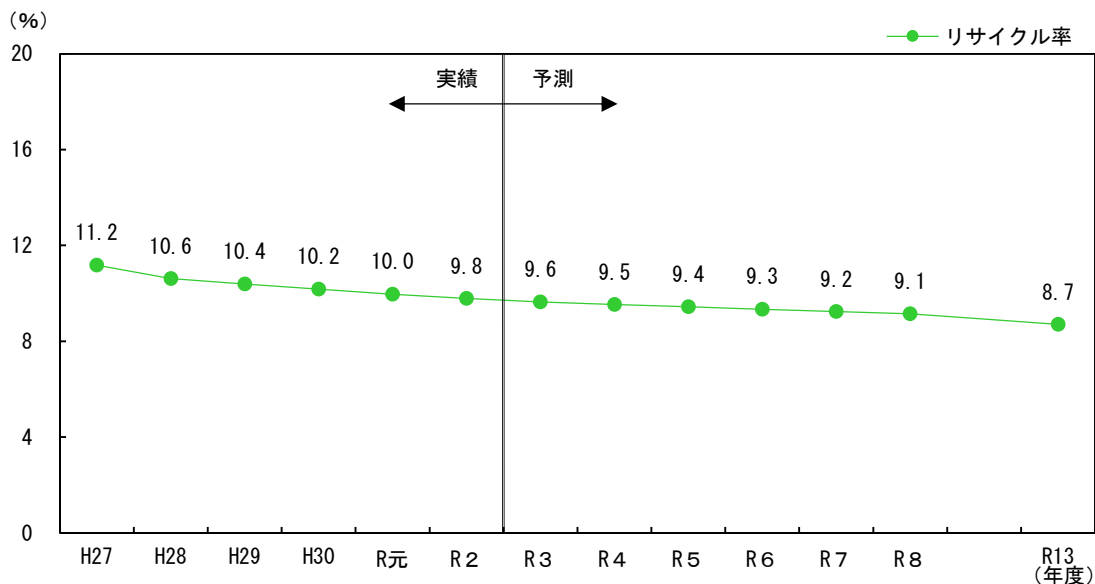
排出原単位の予測結果について、全体を見ると減少傾向にあり、令和13年度では約922g/人・日と推測されます。

排出別に見ると、「生活系ごみ」は減少傾向、「事業系ごみ」は微減傾向、「産業廃棄物」は微増傾向が続くものと推測されます。



4. リサイクル率

リサイクル率については、徐々に減少していき、令和 13 年度では 8.7%と推測されます。



5. 最終処分量

最終処分量について、全体を見ると大きな変動はなく、令和 13 年度では約 15,800t/年と推測されます。

なお、最終処分量については、9割以上を焼却灰が占めています。

